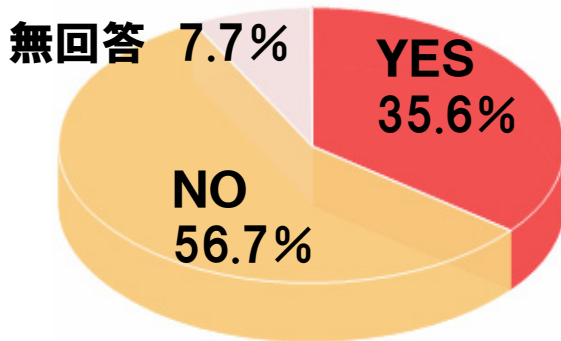


【質問】

自分がキャプテンとして適任だと思いますか？



【上田さん】これね、35%なんですけども。キャプテンの鉄人、原田さん。最初にキャプテンを任命された時ってどうですか？適任だと思いました？



【原田さん】自分がやりたいとか、そういう形では思っていなかったんですけども、やはり監督に「お前がやれ」という形の中で、その時は不安だらけでしたよね。でも、「任されるのであればやっていきたいなとか、やれるようになりたいな」という気持ちで、とにかく頑張っていましたけども。



【上田さん】指名を受けたときは驚いたけれども、受けた以上はやってみたいと。



【原田さん】はい。ただ、私の性格上、どちらかというと、あまり前に前に表現をしていくタイプではなかったんで…



【上田さん】今は違うんですね？



【原田さん】今は…そういう経験があって、そこがコンプレックスだったんですね。なので、そういう形で自分をそういう風に表現できるようになりたいということで、「伝える」という側に周って来たんですけども。



【上田さん】キャプテンになって原田さんは非常に積極的になれたということですよ。



【原田さん】そうですね。自分をやっぱり変えたいな、という思いもすごくありましたし、その中でチームメイトの助けであったり、そのチームが一つになっていく喜びとか嬉しさを感じることで、またよりやっていきたいなとか、キャプテンの良さがわかってきましたね。



【上田さん】安藤さん、今のチームなんかは、監督の立場でキャプテンを指名するんですか？決める基準ありますか？



【安藤さん】キャプテンを決めるのは、基本的には、「そのチームに長く居る」。で、やっぱりそれは責任感が強いと思うんですよ。そのチームに対する思い。だから、あまり歳には関わらなくて。その責任感が強い人を選ぶっていうのはありますね。



【上田さん】日本はどうしても、苦篠さん、年功序列でさ…。学生スポーツは仕様が無いけど、けっこうベテランの方がキャプテンになるケースが多いですよ。



【苦篠さん】多いですね。ただそれだけでは、年齢が上だからキャプテンという基準っていうのは僕は間違っていると思うんですよ。まあ、その中でも選んだ選手っていうのが非常にチームの事情・チーム内のことも良くわかっているし、その監督の考え、そういった部分もよく把握してくれているということで、監督からすれば、（僕は監督経験はないんですけども）監督がいないと仮定したときには、一番その現場を指揮とれるというのがキャプテンやと思うんですよ。監督の身代わりだと思えます。



【上田さん】今の言葉、非常に重要なことでして。僕はキャプテンを選ぶときに、下級生がですね、「あの先輩いい人だからキャプテンだ」というのは違うと思うんですよ。やっぱりキャプテンというのは指導者とおなじ側にたって、下級生に部員に対して厳しく言える人が適任だなと、だから安心して指導者は任せられると、いう感じがするんですけども。どうですか、安藤監督。



【安藤さん】はい、その通りです！やっぱり、わかってくれてる、任せられるかってことなんですよ。今、年齢っていうのをいったのは、そのチームに対する責任の度合いの高い人がやっぱり…信頼関係なんですけども。簡単に言ってしまうと。



【苦篠さん】監督が言いたいことをキャプテンが皆に言うということは、発言するということは自分自身にも厳しくなければいけないんですよ。言うだけではなくて、言ったキャプテン本人が、もっともっと上を目指して、「チームがどうやったらうまくいくだろう、まとまるだろう」というところをやっつかないことには、言うだけではついてこないですからね、下の選手っていうのはね。



【土田さん】私は実は、個人競技なので、「キャプテン」とはちょっと縁遠いかな、というところではあると思うんですけども。個人競技も実はそう違いはなくて、やはり、個人競技なんですけども強くなるためには「チーム」で動くんですね。そういう意味では、信頼関係であったりだとか、本当にこの人に着いて行って一緒にひとつの目標を追い求めたいとか、そういう思いに繋がっていくのは、「キャプテンの力」というか、上に立つものの魅力というか、そういうものであるというところでは、日ごろから「牛耳る軸」となる人間というのは、選手であり、コーチであり、またその更に上には監督がいらっしゃると思うんですけども、そういうものの必要性、大切なものという風に考えています。



【上田さん】だから、土田さんをサポートしてあげたいな、と思って貰えるかどうかですよ、要はね。



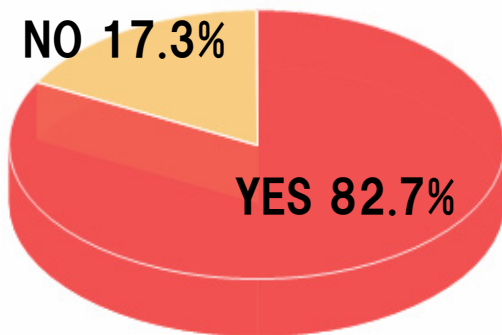
【土田さん】そうですね。



【上田さん】今、一つの結論がでそうなんです。人間的にしっかりした人じゃないとリーダーには、まずなりきれないという部分なんですよ。今、皆この段階でね、立派かどうかっていうのは分からないけれども、立派になろうという努力をすることは、これから一番大切なんだと思います。

【質問】

キャプテンとしてやりがい（喜び）を感じる事がありますか？



【原田さん】そうですね、やはり結果として出るという事が一番やりがいという所に繋がると思うんですけども、その責任感、自分が中心に引っ張っていくという責任感、中で戦っている時というのはそういう思いが倍増して出てくるなとは思いましたよね。ただ、負ける時にもその倍ダメージを受ける感じはしましたけれども…。



【上田さん】アンケートでも勝った時、というのが結果として分かりやすい。でも中には、他校の先生にチームの姿勢を褒められたとかもね。要するにやっぱり先生方っていうのは、自分たちのチーム以外の事もよくみてらっしゃるんですね。安藤さんはどうですか？



【安藤さん】これ、逆にNOの17%の方は気になりますよね。どういう事がやりがいじゃなかったのか、やりがいに感じられなかったのかなーと。



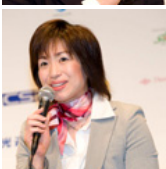
【上田さん】あのね、まだ自分がキャプテンとして具体的に動いていないので、まだ感じていないということがありますね。試合がないとかね。これからまだシーズンはじめて、新しくキャプテンになったばかりだと思うんですよ。



【笹篠さん】あまりにもチームの事を考えすぎて、自分のことをまだ思い切って表現できないから、苦しい苦しいが先に走っているのかもしれないですね。



【上田さん】あー、ありますね。あまりにも大役を仰せつかっちゃって一体何をやっていいのかわかんなくなっちゃって、実際は自分が本来はプレイヤーでありながら、自分のプレーを見失ってしまうってこともあるかもしれないですね。土田さんいろんなリーダーをやりながら、今までお話を聞いた中で、自分の立場として考えられることがあります？



【土田さん】今やっぱり求められていることとしては、1つの結果を求めるというのでは、個人競技はもう自分が主体なので、そういう所ではキャプテンなのかもしれないですけども。そういう意味では個人競技をやってキャプテンというものを体験させて頂いているようには今思いますけど。

※キャプテン会議より、一部抜粋。

アスリートの皆様には、その他多数の高校生の悩みに対するアドバイスを頂きました。